

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



3面

水田農業の
理解へ
現地記者会見
(福岡県本部)

6面

「JA資材店舗CS
甲子園2024」
表彰大会を開催
(耕種資材部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://x.gd/G3W90>

News!



米生産・流通の現状について記者説明会

適正価格への理解を求める

米穀部

全農は10月17日、東京・大手町のJAビルで、農政クラブ（農林水産省内の記者クラブ）や農協記者クラブに所属する23社29人の記者に対して、記者説明会を実施しました。

令和5年産精米は高温障害によって歩留まりが低下していたことや、インバウンド需要の増加などにより端境期の在庫が不足したことで、今夏は米不足に関する報道がありました。

記者の方々に米の情勢に関する正しい理解を深めていただくことを目的として、米の生産・流通をテーマとした記者説明会を開催しました。

全農の米穀麦類農産事業担当役員である金森正幸常務理事から米を取り巻く情勢、流通・価格設定の仕組みについて説明しました。質疑応答では、来年の端境期における需要動向など多くの質問が出され、米に対する記者の関心度の高さがうかがえました。

記者に説明する金森常務



全農は今後も「再生産可能な適正価格」の理解醸成に向けてメディアとのコミュニケーションを図ります。

News!



「JAL和牛お土産サービス」開始

19路線22便、海外に持ち出す検疫手続きを代行

JA全農ミートフーズ(株)

JA全農ミートフーズ(株)は10月7日、日本航空(株)（以下JAL）と協力し、羽田空港と成田空港発の国際線で、海外への手土産として和牛を提供する「JAL和牛お土産サービス」を開始しました。

「JAL和牛お土産サービス」は和牛を日本から海外に持ち出す際、JALが輸出検疫手続きを代行するサービスで、現在は「鹿児島黒牛」と「北海道和牛」で展開しています。

ビスを導入しており、今回のサービスの開始によって、両社合わせて羽田空港・成田空港発の米国線・シンガポール線計19路線22便で利用できるようになりました。

JALグループでは子会社の(株)ZIPAIR Tokyoが2024年1月から同サー

和牛は政府が推進する「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」の重点品目に掲げられています。

同サービスにより新たな喫食機会を創出することで、和牛の魅力が世界中で認知され、海外でも消費が拡大することを期待しています。

JA全農ミートフーズでは今後もJALと連携し、取り扱うアイテムの拡充など、同サービスの拡大を進めていきます。



「JAL和牛お土産サービス」で海外での和牛消費拡大を狙う



水田農業の理解へ現地記者会見

適正な価格形成を説明、稲刈り体験や新米試食

福岡県本部



新米試食会の様子。生産者と乗富会長(右から2人目)



稲刈り体験をする報道関係者

福岡の主要メディア記者を対象に、「米」をテーマに稲刈り中の圃場^{ほしうば}や老朽化が進むカントリーエレベーター(米麦乾燥調製保管施設)、JAふくおか嘉穂の直売所「かほ兵衛の台所」へ招き、稲刈り体験や新米の試食会を行い取材対応しました。

JA福岡中央会・福岡県本部運営委員会の乗富幸雄会長は「報道関係者が農作業を体感する機会を設け、米作りの大変さを知り、米不足や精米価格の高騰が連日報道される中、生産者は「稲作を継続するためにはまだまだ生産コストを賄えていない」と生産現場への理解を求めました。

JAグループ福岡では、農業の現状と課題について正しく報道され、消費者の理解が得られるよう今後も現地記者会見を開催していきます。

発信してもらうことで消費者への理解促進につなげたい」とあいさつしました。

福岡県本部を含むJAグループ福岡は、農畜産物の生産・販売現場の現状や農家・JAにおける課題について正しく理解し、報道していただくため、報道機関を対象とした現地記者会見を定期的に開催しています。10月1日にはJAふくおか嘉穂で現地記者会見を開催しました。



東京駅のカフェで「MILK & TEA FAIR」

農協牛乳×国産茶のコラボレーションを1カ月間提供

酪農部



「煎茶堂東京」と農協牛乳のコラボレーション



多数の来場者で大盛況

期間中は、定番メニューの「抹茶ラテ」や「ほうじ茶ラテ」など牛乳を使用した全てのドリンクメニューを、独自の製法を用いた「すっきり後味」が特徴の農協牛乳(製造・販売・協同乳業(株))で提供しました。

同カフェの日本茶メニューを監修する「煎茶堂東京」とコラボレーションし、「農協牛乳で作る濃厚ミルク仕込みのお茶ラテ」や、お茶ラテに使用する「農

全農と農林中央金庫、(株)JR東日本クロスステーションは、牛乳と日本茶の消費喚起や飲み方提案を目的に、10月5日～11月4日の1カ月間、東京駅のJAPANESE CAFE TOKYOで「MILK & TEA FAIR」を開催しました。

協牛乳のための煎茶」を数量限定で販売しました。

店内では、牧場のジオラマや乳牛のぬいぐるみ、お茶箱を設置し、スタッフも牛柄のエプロンを着用して、フェアを盛り上げました。10月5、6日には特別イベントとして、(一社)日本茶アンバサダー協会協力のもと、全国から5社の日本茶の作り手が集まり、農協牛乳に合うお茶ラテを提供。2日間で合計約3000杯を提供する大盛況のイベントとなりました。

News!



栃木出身パリ五輪選手を「食」で応援

県産米「とちぎの星」や「とちぎ和牛」、梨「にっこり」贈る

栃木県本部

栃木県本部は、今夏に開催されたパリオリンピック2024で、活躍した栃木県出身の鏡優翔選手（レスリング女子76kg級金メダル）、水沼尚輝選手（競泳男子100mバタフライ8位）、松下友之選手（競泳男子400m個人メドレー銀メダル）に県産農畜産物を贈呈しました。

9、10月に県庁で行われた鏡選手に対する「栃木県民栄誉賞授与式」と水沼選手、松下選手に対する「栃木県スポーツ功労賞授与式」に併せて、「栃木県産農畜産物の贈呈式」を行いました。県本部運営委員会の国府田厚志会長らが各選手へ県産米「とちぎの星」、「とちぎ和牛」、県産梨「にっこり」を手渡ししました。

国府田会長は「おめでとうございます。栃木県のおいしい農畜産物で、今後もしっかり頑張ってください」と選手たちを激励しました。選手たちは「栃木の農畜産物は本当においしくて最高。力になります。たくさん食べてこれからも頑張りたい」と話しました。



鏡選手（右）と
国府田厚志会長



水沼選手（左）と
中村昌文県本部長



松下選手（右）と
佐藤和弘副本部長

News!



農業ワークショップで労働力支援

JAアクセラレーター「Perma Future」と連携

岩手県本部

岩手県本部は、収穫時期に集中的に労働力が必要な生産者に「Perma Future」が提供する農業ワークショップサービスの活用による労働力支援を提案し、9月にJA新いわて管内のリンドウ生産者でサービスの試験導入を行いました。

「Perma Future」はJAアクセラレーター第6期に採択され、「農業ワークショップ（Work + Vacation）の造語…普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事をすること」の機会を提供するスタートアップです。

JA新いわてと連携し、「Perma Future」のサービスを導入した（株）のり片子沢の三宅博都専務からは「熟練スタッフを選花調製作業に集中させることができ、リンドウの彼岸向け需



三宅専務から作業を教わる参加者



リンドウの収穫作業を行う参加者



「青天の霹靂」10周年で記念イベント

スーパーで抽選会、県内子ども食堂85カ所へ贈呈も

青森県本部



青森県社協の高杉会長(右)に目録を手渡す笹森副本部長

期間中に青森県産米を購入した方を対象に、同店で使える商品券や県産米パックご飯セットなどが当たる抽選会を行い、新米「青天の霹靂」の試食も実施しました。

今回、その一環としてデビュー10周年の「青天の霹靂」20キを(福)青森県社会福祉協議会を通じて県内の子ども食堂85カ所へ贈呈。イベント内で贈呈式を行いました。贈呈式には、県本部の笹森俊充副本部長が出席し、青森県社協の高杉金之助会長へ目録を手渡しました。

またイベント会場には、お米大使とクリーンライズレディあおりも登場し、来店客に青森県産米をPRしました。

青森県本部は10月10～12日、「青天の霹靂」デビュー10周年記念イベントを、青森市内のスーパー「ユニバース」で開催しました。



三次CBSが農場HACCPを取得

肉牛出荷までの工程まとめ、衛生・飼育環境も整備

広島県本部

農場HACCP取得の認証書を掲げる職員(広島県三次市で)



畜産物の安全性確保と生産性向上を図るため、農場HACCPの取得に約3年かけて取り組み、県本部直営農場「高宮実験牧場」に続いて2つ目の農場HACCP取得となりました。

畜産物の安全性確保と生産性向上を図るため、農場HACCPの取得に約3年かけて取り組み、県本部直営農場「高宮実験牧場」に続いて2つ目の農場HACCP取得となりました。

また、農場内の整理整頓や防疫対策などの衛生対策を行い、職員への農場の衛生管理や知識を深めるための教育・訓練を徹底。安全・安心な素牛づくりを行うため、一般的な衛生管理プログラムに準じた衛生対策を行うなど、牧場環境整備に努めました。

同農場の林眞寿美農場長は「生後2週間から9カ月の牛の衛生環境、飼育環境を整えることで、ストレスを与えないアニマルウェルフェア対応のできる農場を目指したい」と話しました。

広島県本部の直営農場「三次CBS(キャトルブリーディングステーション)」が9月に農場HACCPを取得しました。農場HACCPは、畜産生産の各工程で危害要因を防止する管理ポイントを設定し、継続的に監視・記録を行うことで、農場段階で危害要因や製品の危害汚染をコントロールする手法です。

「JA資材店舗CS甲子園2024」 表彰大会を開催

～創意工夫あふれる店づくりで組合員の満足度アップ～

全農は10月11日、「JA資材店舗 CS甲子園2024」の表彰大会を都内で開催しました。優勝・準優勝店舗を含めた受賞12県17JA18店舗が参加し、代表者に表彰状と記念品を手渡しました。【耕種資材部】



大会受賞者



表彰状授与



大型陳列部門優勝の南部営農資材センター
長岡出張所（JA水戸）



簡易陳列部門優勝の雄和グリーンセンター
（JA秋田なまはげ）

【JA 賞受賞】
JAおちいまばりの
取り組み
紹介動画はこちら



「JA資材店舗CS甲子園」は、JAの資材店舗を中心とした購買拠点活性化による農家組合員の満足度向上と資材販売の実績拡大を目的に開催しており、全農の購買事業部門が実施する最大規模の大会です。

前身の「JA-POP甲子園」から通算し、今大会で24回目の開催となります。今年は、前年を上回る全国43府県131JA526店舗が参加し、全549作品中94作品が受賞しました。また今大会より新設したJA賞は、3JAが受賞しました。

大型陳列部門では茨城県のJA水戸南部営農資材センター長岡出張所、簡易陳列部門では秋田県のJA秋田なまはげ雄和グリーンセンターが共に初優勝に輝き、工夫したポイントや思いを発表しました。

店舗の角を利用して水田用の商品陳列を行った長岡出張所は「話題の営農情報をPOP（店内広告）で

用いることで職員の提案がスムーズになった」と陳列による組合員対応の効果を紹介しました。床から天井まで随所に工夫をみせた雄和グリーンセンターは「豊作への“祈り”をテーマにインパクトのある売り場を展開し、陳列商品の実績拡大にもつなげられた」と述べました。

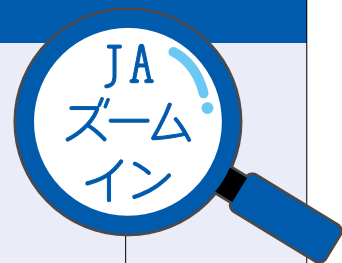
新設したJA賞は、JA管内の応募店舗数、応募率に加えて「職員の知識・ノウハウ習得・意識向上」につながる取り組みの実施状況などを基にJAを表彰する賞です。

2024大会の主な表彰店舗

賞	陳列部門	県名	J A名	店舗名
優 勝	大型	茨城	J A水戸	南部営農資材センター 長岡出張所
	簡易	秋田	J A秋田なまはげ	雄和グリーンセンター
準優勝	大型	群馬	J A邑楽館林	あぐり北部
		島根	J Aしまね 西いわみ地区本部	益田グリーンセンター
	簡易	長野	J Aグリーン長野	J Aファーム篠ノ井店
		鹿児島	J Aさつま日置	吹上経済店舗
J A 賞		福島	J Aふくしま未来	
		長野	J Aみなみ信州	
		愛媛	J Aおちいまばり	

受賞したJAふくしま未来（福島県）、JAみなみ信州（長野県）、JAおちいまばり（愛媛県）は、JA役員が管内全店舗を採点・表彰する店舗コンクールや各種スキルアップ研修会など、独自の取り組みを紹介しました。中でも、大会のエンドロールとして流したJAおちいまばりが自らの取り組みをまとめた動画には、会場から大きな拍手が送られました。

今後も大会を通じて、購買拠点活性化による組合員満足度の向上と実績拡大を目指します。



都市農業よ『みらい』へ。

地域と行政とともに

JA東京あおばは、東京23区の北西部に位置し、管内は板橋区・北区・豊島区・練馬区の4区です。農地面積は313・5haと23区内で最大です。山手線の外側5〜10kmと都心に近く、古くからベッドタウンとして宅地開発が進展し、良好な住環境を併せ持つエリアでもあります。

JAと農家と行政が連携し 誰でも触れる「はたけ」を

2023年3月20日、東京都が指定した農の風景育成地区内にある土地を活用し、JAが練馬区から委託を受ける形で「高松みらいのはたけ」がオープンしました。オープン前は「(仮称)農の風景公園」として地元生産

者や地域住民の代表らと意見を交わしながら、さまざまな作物の栽培を試験的に行っていました。

オープン後は、誰でも気軽に農業に触れることができるよう、農地公園として1年を通じて開放。JAの職員



農地公園として開放

が常駐して、野菜の説明や畑の案内をしたり、農産物の簡単な調理法などを話したり、来園者の対応をしています。

農のサイクルを通じて 都市農業を身近な存在に

「高松みらいのはたけ」を通じて消費者に農業を身近に感じてもらう企画として、収穫だけではなく種まきから収穫までを一貫して体験



トウモロコシを収穫して喜ぶ親子

JA 東京あおば (東京都)



概要		2024年3月31日現在
正組合員数		2655人
准組合員数		2万4556人
職員数	(2024年3月末退職者・パートタイマー・派遣職員を除く)	374人
販売品取扱高		4億9千万円
購買品取扱高		2億8千万円
貯金残高		5029億円
長期共済保有高		7467億円
主な農畜産物	キャベツ、ダイコン、 ブロッコリー、花き、 果樹	

透させていくべく、さらなる取り組みを進めます。



地域農家のマルシェも開催



地元イベントの拠点としても活用



ニッポン
エール
ブランド

「ダブルゴールドグミ」を新発売

神奈川県産「湘南ゴールド」と東京都産「東京ゴールドキウイ」を使用

全農と全国農協食品(株)、(株)ファミリーマートは、「ニッポンエール」ブランドで「ダブルゴールドグミ」を共同開発し、11月19日から全国のファミリーマートで販売します。※店舗によって取り扱いのない場合があります。

【営業開発部】

「ダブルゴールドグミ」は、神奈川県産「湘南ゴールド」の果汁と東京都産「東京ゴールドキウイ」のピューレを使用し、2種類の果物をミックスしたグミです。「湘南ゴールド」の爽やかな酸味と「東京ゴールドキウイ」の豊かな甘味がマッチした味わいを楽しめます。

全農は、国産農畜産物の消費拡大や生産振興に向けて、今後も「ニッポンエール」の取り組みを全国の産地・品目に拡大していきます。



ニッポンエール
「ダブルゴールドグミ」

全農所蔵の
大作構想画を
一般公開中

永井潔氏「歴史」 江戸末期三河の加茂一揆描く

全農が東京・大手町のJAビル特別会議室Aに所蔵・展示していた構想画「歴史」が、作者である永井潔氏(1916～2008年)のアトリエ館で一般公開されています。

【総務人事部】

永井潔氏は生涯にわたってリアリズムを追求した画家でした。アトリエ館館長の永井愛氏はその長女で、著名な劇作家として活躍されています。

同絵画は、江戸末期三河に起きた加茂一揆に想を得たF150号(2273×1818^{ミリ})の作者最大の大作で、闇に揺れる^{そら}の炎が、命がけの行動に出ようとする農民たちの複雑な心情を照らし出しています。

全農が寄贈を受け、1965年に旧JAビルに設置。以降、ビル移転を経て現在は現JAビル35階特別会議室に掲げています。



永井潔アトリエ館で公開している構想画「歴史」

永井潔アトリエ館

〒179-0085 東京都練馬区早宮 4-6-5

第11回企画展「絵画は語る」永井潔の構想画

開催期間：2024年9月5日～2025年7月26日

開館時間：毎週土曜日 11～17時のみ

(年末年始・2月は休館)

入館料：一般 300円

JA全農の産地直送通販サイト



JAタウン ショップ紹介



飛騨・美濃うまいもん広場

富有柿の発祥の地である岐阜県からお届けする、選り抜かれたワンランク上の「特選袋掛け富有柿」です。

「特選袋掛け富有柿」は、富有柿の成長途中に、たくさんの柿の中から特に色・形が良い果実に袋をかけます。さらに、通常11月中下旬の収穫時期を12月中旬ごろまで遅らせ、ゆっくりと成長させることで色づきの良い大玉の富有柿になります。

また、収穫時には重量、糖度、果色に加え、傷や虫食いが無いなどの厳しいチェックが行われ、条件を満たした富有柿だけが「特選袋掛け富有柿」として出荷されます。味や外観など品質に優れた「特選袋掛け富有柿」は、贈答用としてお勧めです。



岐阜県産 特選袋掛け富有柿
秀2L×12玉入り・・・7500円(税込み)
※12月上旬ごろ発送

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>

▶ お問い合わせは ☞ shop@ja-town1.com

